

新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ <http://www.echigo.ne.jp/~nma/>

会長 遠藤家之進正和
新潟県山岳協会
新潟市南区鷺ノ木新田1049
TEL 025-362-5004

事務局 諏訪恵一
長岡市高畑町610-10
TEL 0258-35-4373

編集 新山協ニュース編集
委員会代表 浅野亘寬
TEL 0258-52-3998

21年度 第3回目の 理事会開催される

◇議案

◇第1号議案 平成21年度専門委員会事業・決算報告について

総務委員会、指導技術委員会、自然保護委員会、競技委員会、海外登山委員会、ジュニア委員会、会報編集委員会

◇第2号議案

平成22年度専門委員会事業計画・予算について

◇第3号議案 その他

- ・連絡事項
- ・部門別監査

以上の議案において去る平成22年3月20日 長岡市中央公民館工作室において13:00～15:30の予定で新潟県山岳協会役員が招集され開催された。遠藤会長、森理事長より「トキめき新潟国体」では事業として概ね成功裡に終わったお礼と報告があり、また今後についての県山岳協会は、如何にあるべきか、などの問題提議があった。第1号議案

専門委員会事業決算報告・第2号議案専門委員会事業計画・予算について各委員会から報告・計画が発表された。それにさきがけて本年は新潟県で「全国自然保護総会」尾の他が開催されるとの事で本間自然保護委員長の紹介で日山協の常務理事（自然保護委員会）長谷川氏が挨拶された。その他、遭難対策委員会では常務理事榎井利幸氏が理事に退き、理事副委員長の井春文氏が常務理事・遭難対策委員長に就任する。ほかの役員変更では・参与退任 坂井厚氏、・理事退任、水野正則氏などに変更があった。最後は横山征平・外山禎一監事による詳細な収支の監査があり、4:30分頃の閉会となる。4月10日(土)上越市にて開かれる22年度評議員会に於いて各議案の報告を行い承認を得ることになる。

会報・編集 浅野

飯豊連峰の新発田市からの 登山口「湯の平温泉」の呼称について



写真：湯の平へつづくブナ林

湯の平温泉の呼称について、いままで色々と呼ばれてきましたが、このたび1月15日の新発田市の広報紙で統一呼称が示されましたので広報原文のままお知らせします、「湯の平」は「ユノヒラ」と読むことになりました。湯の平の呼称については、今まで「ゆのひら」、「ゆのたいら」など確定したものではありませんでした。市では「ゆのたいら」と紹介していましたが、明治時代の資料や、関係機関との協議に基づき、平成22年1月1日から「ゆのひら」と読むことに統一することとしました。

・問い合わせ先
新発田市観光振興課観光係
0254-221-3101
尚登山道の通行に関しては平成21年10月から赤谷ダム湯の平温泉間徒歩通行のみ6月中旬～11月上旬まで通行可能となっております、この期間は（小屋有料）管理人は常駐します。
資料提供・・・
高橋正英（下越山岳会）

海外・国内旅行、主催・手配



ユニオン航空サービス

〒240-0004 長岡市幸町1丁目3番5号 (株) 日本旅行株式会社
一級旅行業務取扱主任者 森 晴雄
本社 新潟県長岡市幸町1丁目3番5号
<http://www.uks.co.jp>

☎ (0258)33-7123
☎ (025)246-2266

☐長岡営業所 〒240-0004 長岡市幸町1丁目3番5号
一級旅行業務取扱主任者 森 晴雄

☐新潟営業所 〒950-0918 新潟市東区3丁目2番11号
一級旅行業務取扱主任者 中島 豊

越後の山に見られる 変種植物

むささび会 加藤 明文

◆ イワカガミ属
オオイワカガミ

schiroodon



▶母種 イワカガミ
湯の丸山 6月21日



▶オオイワカガミ
祖倉山 5月23日

本県の低山帯等本州の日本海側の林内に産する。葉は円形で8~12cmと大型 (V, magnus ~大形の)。母種は乾燥した所を好むイワカガミ (soldanelloides ~イワカガミダマン属に似た) で小さく本県には少ない。また高山帯に登ったものをコイワカガミ (alpinus ~高山の) といいさらに小さく花数も少ない。属名はギリシャ語で「切裂した鐘」、イワカガミダマンはスイスアルプスに産する。

お知らせ

第50回自然保護研修会のご案内

新潟県山岳協会
新潟県山岳協会自然保護委員会
自然保護委員長 本間 一人

1 主旨 関係各位におかれましては日頃自然保護に対し、ご理解を賜り感謝申し上げます。春の研修会を次の日程にて開催いたしますので多数参加くださいますようお願いいたします。今回は今話題の世界ジオパークについて地元講師をお願いして研修を行いますので大勢の参加をお待ちいたします。

◎23日の行動 戸倉山と白鳥山の2班の登山となります。

7 講師 小野 健 氏 (さわがに山岳会)

8 演題 世界ジオパーク

9 会費 宿泊 ￥30000

10 日帰り ￥10000

11 持参品 日帰り登山装備、シュラフ、食器、食料(豚汁の用意があります)

12 申込先 〒959-1312 4

13 村上市金屋2236

14 自然保護委員会事務局

15 坂野 雅之

16 ハガキ又はFAX

17 0254-621-3038

18 E-mail (hime.sayuri@aw.wakwak.com)も可です。

19 締切 5月17日

20 ◆成功させよう全国自然保護

21 総会(高柳じよんのび村)

22 9月11日~12日 参加希望

23 者は本間一人までお申し込み下さい。

24

25

26

27

賛助会員入会
ご入金のお礼

次の皆様から、ご入会、ご入金を頂きましたので、ご報告させて頂きます。
*3月1日~3月末日現在の

ご入会、ご入金状況です。

・本間 一人(亀田山岳会)

・外山 禎一(山友会 '99)

(敬称略、順不同)

新潟県山岳協会

会長 遠藤家之進 正和

理事長 森 庄一

総務委員長 遠藤 俊一

登山・スキー・テニスの専門店

ヒトと地球のインターフェイス



新潟市中央区堀之内南1丁目16-52 TEL(025)241-5134(特)
営業時間/平日10:30am~8:00pm 休日10:30am~7:00pm

ゆのひら
湯ノ平温泉今昔

高橋正英(下越山岳会)

新潟県側からの飯豊山登拝路としては湯ノ平温泉からの道が最も古い、古文書にはすでに享和3年(1803)天狗ノ湯として現在の湯ノ平温泉であろう記載がある、湯ノ平温泉の開湯起源は地元の人による伝承によれば、文久年間に米沢の猟師が数人熊狩りに飯豊川へ来て、その一人が誤って崖下に転落、負傷した。その時、温泉が湧き出しているのを発見し、負傷者と若干の食料を残して帰った。負傷者は入浴して傷を治して無事に戻ったと言うのが定説になっている。その後、藤島玄著「飯豊の山旅」によれば湯ノ平温泉が安政年間(1854~60)に開発されて飯豊大権現信仰の伝播がこの地方に及び飯豊講中の拠点になった。越後赤谷口登拝路は、講中、村民達の手で延々と主稜線を伐開していったのであるとある。また明治33年(1900)4月発行の「赤谷村誌」によれば「文久元年(1861)4月滝谷ノ人、阿部藤右衛門ノ開湯ニシテ明治5年(1872)4月新潟市医師阿部宗益ニ譲リ後同市会金次郎ノ所有トナル」とある。文久は3年間であり、元年の4月に開湯したと言う事は、米沢の猟師が発見する以前に阿部藤右衛門が開湯していたのではないかと推測される。それから12年後に新潟市の会金次郎の所有になったことになる。現在の山荘と炊事場の間に「哀小柳美能女溺死の墓碑」があり裏面に「明治9年8月29日 施主 会金次郎」の刻印がある。

小柴清次著「赤谷郷土史私考」によれば「明治に入ってから新潟の相金という事業家が経営したことであったが採算が取れず3、4年で閉鎖した」とある。古くは天狗の湯、飯豊の湯、湯平、湯場、滝谷温泉と色々な名で呼称されてきたのを会金次郎が湯ノ平温泉と統一した温泉名を使ったように思われる。湯舎は閉鎖したが、湯が止まったわけではなく、飯豊権現登拝者、登山者、好事家が入湯する程度で、道は自然のなりゆきに任せ年ごとに悪くなっていった。その後、何人かの事業家が湯ノ平温泉の経営を試みたが営業に失敗して、昭和25年9月5日磐梯朝日国立公園が制定され、そのなかに飯豊連峰は飯豊地区として含まれ、湯ノ平温泉も国立公園地内となった、国立公園に編入されてからは補修整備も行政がおこなうことになり、当時の赤谷村役場で観光協会を設立し大掛かりな飯豊道の大改修が行われ、湯ノ平温泉にはトタン葺の本格的な山小屋も建てられ、昭和26年秋にはそれまで蟹湯脇を回りこんで飯豊川沿いに飯豊稜線上へ辿った登拝路(登山道)を現在の山荘裏手から岩稜の急登を鳥居峰へ登り、オオインの逆峰から中峰、北股岳の裾をへつり洗濯平を抜けて十文字鞍部、飯豊本山に至る尾根上に変更された、当時登山シーズンになると洗濯平に市役所で固定テントを設置して登山者の便宜をはかってくれたが、数年で廃止され洗濯平經由の道も後に残雪期の遭難事故などが多発したために廃道として、現在の北股岳へ直登するルートに変更となっている。(この道は父子二代にわたり尽力された井上栄橋氏の屋号をとって、善左門新道と命名されたが今ではその名を知る者も少ない、また下越山岳会の名誉会員で大先輩の当時赤谷役場職員で新道開発には一家総出で協力を惜しまず飯豊道と湯ノ平温泉を守り続けた杉原八百樹氏の名前も忘れてはならない)。

赤谷線最終駅東赤谷駅から歩いて12本もある飯豊川に流れ込む支流を迂回しながら渡り、肝を冷やすおもいで一歩一歩へつった赤津の百段屏風も林道の開通で、その姿を目にする事が出来なくなり、6~7時間かかってようやく湯ノ平温泉にたどり着いた道も昭和35年には掛留ダムで完成して掛留沢まで車が入るようになり、その先1時間程で温泉に行けるようになった。

昭和34年秋には小屋も国、県、からの補助を受け本格的な3階建ての立派な建物が完成してその名も湯ノ平山荘となった、39年6月には第19回国体が飯豊連峰を会場として開かれることになり、選手、役員、総勢百人を超える大人数を収容するために高田自衛隊に選手用の幕营地、整地を要請して爆破作業を行い現在の避難小屋の上部にテント場が完成した(今ではすっかり藪に覆われてその面影すらない)下越山岳会の土田設営隊長以下11人と新発田自衛隊通信隊が、大会前後10日間湯ノ平温泉に常駐して大会を支援した。

近代的に生まれ変わった山荘も、地震や豪雨、豪雪に見舞われて修理を重ねてきたが、老朽化が進み14年で廃屋となり、昭和51年により頑丈な、豪雪に強い小屋を目標に鉄骨アーチ型的小屋になり、秘湯ブームとあいまって大変な賑わいとなるようになった、平成12年秋には水洗トイレを完備した近代的な現在の避難小屋に生まれ変わったが、直後に掛留駐車場に通ずる林道の崩落危険箇所が発覚して通行止めが続き、漸く平成21年秋から赤谷ダム~湯ノ平温泉まで徒歩通行が許可となり、毎年新発田市によるつり橋の設置登山道の点検が終了する6月中旬から11月文化の日頃まで通行が可能となった。

将来は再び掛留沢の駐車場まで車で行ける様になり、大勢の人達が貴重な湯ノ平温泉を楽しめる場所になるように願っています。

文責 高橋正英(参考文献 五十嵐篤雄著 飯豊道)

春遠し越後の山々 山野草も開花おくれるか!

まだ積雪もあり、春山とよぶには程遠い。今冬の大雪によって人気の山野草の花の見ごろが地域によって差がありそう。花に浮かれてばかりはいられない。大雪による倒木も多く、かなりの巨木の傷みも激しい。「強風時の林間の登下降時は頭上からの落木に充分気をつけよ」とベテランは注意をうながしている。また現在は尾根から谷底まで詰まった雪も断裂が見えてくると雪崩の発生、陥落した雪渓への転落など、遭難におちいる事例にはいとまがない。沢部の登下降には注意したい。ゴールデンウィーク近くの頃はブロック雪崩の最盛期とお

もわれる。山菜採りに多い遭難事故が心配される。自称ベテラン、街の山菜採りの名人といわれる人達が慾に目がくらんで命を落とすのもこの季節に多い。



早くもイワウチワが

編集こうき

▲マンサクが咲く尾根から山腹をおりてみる。締った雪面はスノーシューもカンジキもいらぬほど快適に下降できる。木の芽もまだ固い落葉樹林にまじるブナの幹まわりは深い洞となつてい。雪に埋没していた木々が日に照らされて驚くほどの勢いで跳ね上がる。カモシカや他の小動物のあしあとをひろいながら杉の林にはいると、朽ちかけた切り株に見事についたキノコを見つけた。スパーで売っている養殖のものは姿や色も別物のように違うが、写真撮っていつて友人から見てもらったら、濃い餡色のキノコの株はやはり「エノキ茸」だった。

先になると何を動きがいらしているのか部屋の隅にある自分のエリアで巣作りを始める。座布団、タオル、靴下などをくわえこんでいて紛失したものは大体そこにある。どうも勝手に想像妊娠をするらしい。視線を感じて振り返ってみると微妙な尾のふり方と妙な目つきに出あう。覚えのない私だが、そして照れることもないのだが、どうも妙な具合だ。

積雪期の越後の雪は湿気が多い。衣服に付いた雪が体温で溶け、外からの湿気と汗で下着までの濡れに注意したい。テント、雪洞で就寝する前に濡れた物はある程度乾かしておきたいものだ。乾いた下着に着替えて、濡れた物はその上に重ね着して雑用中にある程度は乾かしておきたい。



山から無事に帰るために 先人達からの提言! 《3》

望月 力

▲嫁ぐ娘の都合で実家に置き去りにされた、ダルメシアンは自分の境遇をよく知っている。愛嬌のよさと甘い上手のテクニクには磨きがかかり、人の気をひくのは、その辺りの店のオネエちゃんには負けない。少しなれなれしいが、晩酌をする私の相手をしながら、セクハラにもよく耐えて14歳にもなった。人間でいうと70歳をこえる老嬢だが、春

登山・ハイキング・クライミング テレマーク&山スキー
Parr Mark Mountain & Outdoor
http://www.parrmark.co.jp

JTB Your Global Lifestyle Partner
70th Anniversary 1942-2012
JTB関東 法人営業新潟支店
新潟市中央区古町通6-976
TEL:025-224-2201 FAX:025-229-5775
http://www.jtb.co.jp/shop/houjinniigata/
※“旅”の最新情報、ご覧になれます。
E-mail:h_mitani388@jtb.jp